

令和 3 年度効果的捕獲促進事業結果の概要

1. 背景と目的

渥美半島地域においては、これまでの捕獲強化の取組により、野生イノシシの生息数が減少しており、今後捕獲効率が大幅に悪化することが想定される。実際に、令和 3 年度は、これまでの捕獲の推進や豚熱等の影響により、令和 3 年 11 月時点で捕獲数が伸び悩んでいる。また、過年度までのモニタリング調査結果から、イノシシが秋季以降に山麓部から山中に移動している可能性が指摘されている。このような状況においては、山中においてイノシシを検出し、検出された場所周辺で短期間のうちに集中的に捕獲圧をかけることで確実に捕獲することが必要となる。

このため、野生イノシシの根絶に向けた、低密度に分布する野生イノシシの効率的捕獲方法を検討し、試験的捕獲を実施した。

2. 候補となる捕獲方法

国内外のイノシシ、野生ブタ及びその他外来生物等の捕獲及び根絶事例を調査し、低密度状態における捕獲効率を向上させる手法を把握した。国内外 10 事例を調査し、表 1 に示す 5 つの方法が実施されていたが、法令及び日本のイノシシの行動や生態を踏まえると、①、②、③の 3 つの手法が、適用可能性があると考えられた。

候補となる捕獲方法が適用できる場所を、令和 3 年 9～11 月までのモニタリング結果及び現地踏査、有害鳥獣捕獲等の既存事業との調整等を踏まえ、大山山塊及び表浜樹林帯における 4 か所で実施することとした。

表 1 国内外の事例で採用されていた捕獲方法

捕獲方法	方法概要	適用可能性
① 誘引餌 + 銃	餌場を複数箇所に設置し、自動撮影カメラや餌場の見回りによってイノシシの来訪をモニタリングする。その後、地上（車上、徒歩）及び空中（ヘリコプター）から狙撃する。海外では夜間に実施することが多い。	○
② 誘引餌 + わな	餌場を複数箇所に設置し、自動撮影カメラや餌場の見回りによってイノシシの来訪をモニタリングする。その後、わなを設置し、十分に慣れさせた後に稼働させ、捕獲する。	○
③ フェンスによる 捕獲エリアの細分化 + 追込捕獲（銃）	対象エリアをフェンスにより細分化し、閉鎖環境を作った上で、追込捕獲を実施する。 犬を活用して隠れたイノシシ等を追い出す。 植物が密集しているエリアでは、ハンターや犬がブタに近づけるようにトレイルを新たに切り開く。	○
④ 毒餌	餌にイノシシに効果のある毒を混ぜ、対象エリアに多地点設置する。	×
⑤ ユダ法	四個体を捕獲し無線通信を行う首輪等を装着する。無線通信により位置を捕捉し、グループを形成している他個体の位置を把握し、忍び猟等を実施する。	△

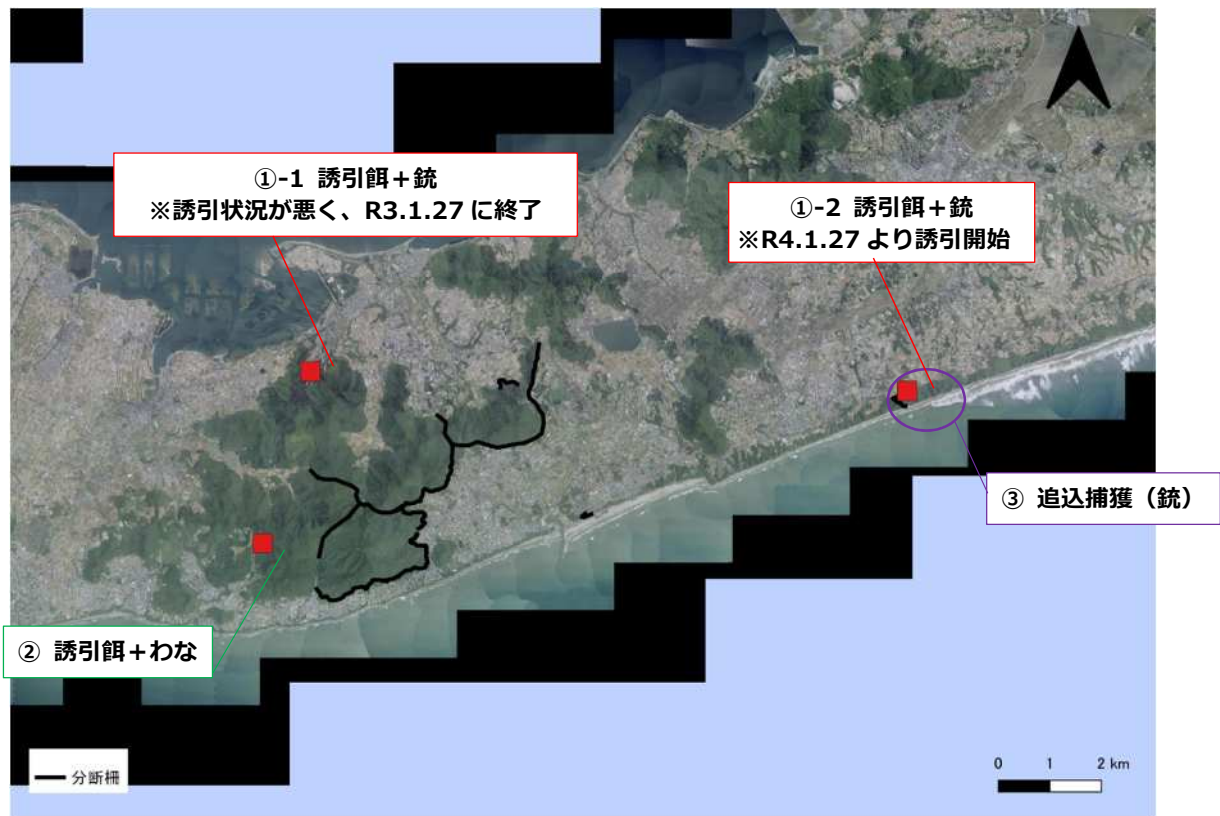


図 1 試験捕獲実施箇所

3. 誘引餌+銃

(1) 方法

【給餌による誘引】

- ・林内等から射撃可能な場所及び給餌地点を選定し、給餌を実施した。給餌には米糠、圧ペントウモロコシ及び配合飼料を用いた。なお、これらの誘引効果には差が見られなかった。
- ・餌が減ってきた場合、または雨天後に餌の質が悪くなった場合に、追加の給餌を行った。追加給餌は、同じ給餌者により同じ時間帯に実施した。
- ・給餌箇所及びその周辺に自動撮影カメラを設置し、イノシシの出没及び餌についたかをモニタリングした。

給餌期間：①-1 令和3年12月17日～令和3年1月27日（41日間）

①-2 令和3年1月27日～令和3年2月23日（27日間）

- ※ ①-1 では、給餌箇所にイノシシの出没がほとんどなく（期間中3回撮影）、試験捕獲の実施が困難と判断されたことから、①-2 に移設した。

【狙撃】

- ・給餌箇所においてイノシシの出没が見られたら、14～15 時ごろから日没まで狙撃地点の確認を行い、イノシシが出没した場合、事前に設定した狙撃ルールに従い狙撃を行うこととした。

狙撃作業日：令和4年2月23日 17:00～日没（17:40 頃）、令和4年2月24日 日の出（6:20 頃）～7:00 頃

※①-1 ではイノシシの出没がほとんどなく、期間中3回のみであったため、狙撃作業を実施しなかった。

(2) 結果

- ・給餌による誘因により、①-1、②-2 とともにイノシシの出没を確認したが、日没前の出没はみられなかった。
- ・2月23日の日没前、2月24日の日の出後に狙撃作業を実施したが、イノシシは出没せず、捕獲には至らなかった。

写真 1 誘引餌+銃による試験状況



4. 誘引餌+わな

(1) 方法

【給餌による誘引】

- ・3. と同一の方法で給餌を実施し、わなの設置後は、わなへ誘導するよう直線的に給餌を実施した。

給餌期間：

わな設置前誘引 令和3年12月17日～令和4年1月19日 (33日間)

わな馴化 令和4年1月19日～2月23日 (35日間)

【わなの設置、馴化、稼働】

- ・給餌による誘因が確認された後、PIG BRIG Trap System (以下、PIG BRIG) を設置した。
- ・設置後、ネットを上げた状態で給餌誘引を継続し、わなへの馴化を行った。
- ・馴化を開始した約1か月後、わなを稼働し捕獲を試みた。
稼働期間：令和4年2月23日～3月2日 (7日間)

(2) 結果

- ・給餌による誘因により、イノシシの出没を確認した。
- ・PIG BRIG 設置後、馴化期間においてわなの手前まで近づくも、PIG BRIG 内への侵入はなかった。
- ・1月26日の出没を最後にイノシシの出没はなく、PIG BRIG 稼働後も出没しなかった。
- ・周辺のカメラにおいてもイノシシの出没は少なくなり、わなへの警戒が強くなったと考えられた。

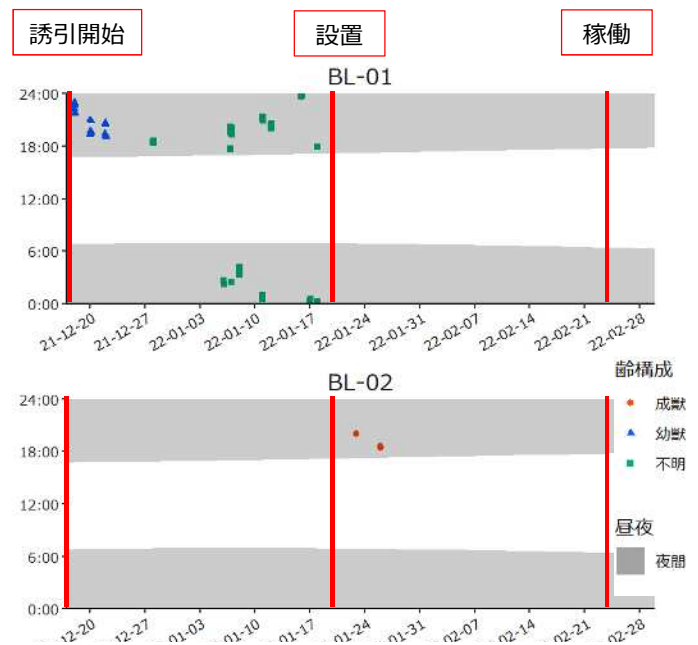


図 2 PIG BRIG 設置箇所におけるイノシシ出没状況

写真 2 誘引餌+わなによる試験状況

		
<p>設置前 給餌箇所に 3 頭来訪 (1/7 19:40)</p>	<p>PIG BRIG 設置後 わなの手前 (1/26 18:26)</p>	<p>PIG BRIG 設置状況</p>

5. 追込み捕獲

(1) 方法

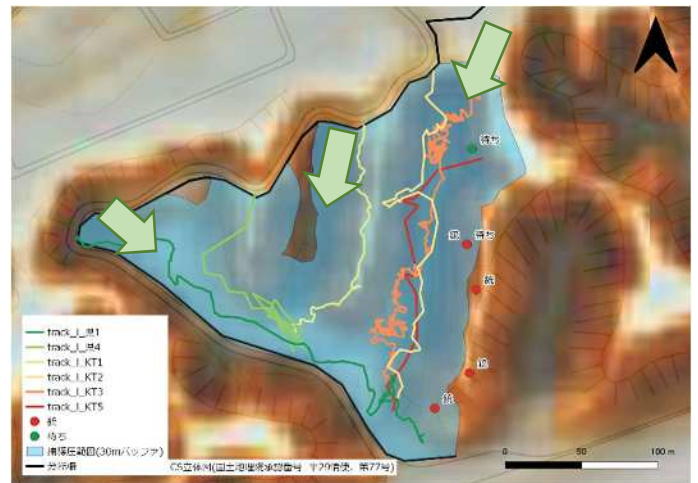
- ・内部における継続的なイノシシ確認が見られたのち、勢子を配置し、鈴を鳴らしながら北側の谷奥から南部の谷出口に向かって追込みを実施した。
- ・追い出されてイノシシが逃げてくると想定される場所に射手を配置し、イノシシを射撃することを試みた。

実施日：令和 4 年 2 月 14 日

射手：4 名 勢子：8 名

(2) 結果

- ・イノシシは確認できなかった。
- ・勢子の軌跡からカバー率（視野範囲 30m と仮定）を算出し、捕獲範囲の 94% に捕獲圧をかけることができていた。
- ・追込み前後でイノシシの撮影頻度は減少したが、追込み当日の夜、自動撮影カメラにイノシシが撮影されたことから、イノシシの日中の休息場が谷内になく、追込み実施時に範囲内に不在であったと考えられた。



6. 課題

- ・3手法は課題が見られるものの、手法を改善することにより有効な捕獲方法になると考えられた。
- ・いずれの手法も、既存捕獲事業（有害鳥獣捕獲、指定管理鳥獣捕獲等事業）の実施場所との調整が必要である。
- ・事前に現地調査を綿密に行い、各手法に適した箇所を複数箇所選定する必要がある。

表 2 手法の課題

手法	課題
誘引餌+銃	<ul style="list-style-type: none"> ・手法適用可能箇所のさらなる追加（山中の昼間に撮影される個体のいる箇所等） ・日没前の出没頻度が高い場所周辺の誘引餌設置、長期間の給餌
誘引餌+わな	<ul style="list-style-type: none"> ・手法適用可能箇所のさらなる追加（林内等イノシシの警戒が低い箇所等） ・長期間の給餌によるイノシシ誘引、わな馴化
追込み捕獲	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ生息地の細分化（既存柵も活用し、簡易柵等の設置を検討） ・日中の休息場所の検出（テレメトリー調査の結果） ・小規模に囲った箇所における長期間給餌による誘引、定着